

今日の説教のポイント<創世記 25 章 19～34 節>

きょうは子どもたちにむけて、お話のポイントをまとめます。

①神さまに祈ることが大事なことを教えられます

リベカさんはなかなか子どもができませんでした。それで夫のイサクさんは「妻のために主に祈った」のです。すると、「その祈りは主に聞き入れられ身ごもった」のでした (21 節)。私たちも色々悩みます。しかし、「ああでもない、こうでもない」と悩んでばかりいないで、神さまに祈ることが大事なのです。祈っても聞かれないこともあります。その時は、「別の道を神さまは用意してくださっているのだ」と思ったらいいのです。聞かれた時は、もちろん、神さまに感謝です！

②でも、その後すべてうまくいく、というわけでもありません

祈りは聞かれて赤ちゃんが与えられましたが双子でした。「胎内で子どもたちが押し合い」、リベカさんは困って、「これでは、わたしはどうなるのでしょうか」と言いました (22 節)。お産で死ぬこともあります。この時はそれくらいたいへんだったのかもしれないですね。祈って聞かれたらその後は万々歳、とはいかなかったのです。神さまに祈るとは、その時のことだけ考えて祈るようなことではないことを教えられます。その時もその後も、良いも悪いも、すべて含めて神さまを信頼する中で祈る祈りが本当の祈りなのです。

③ヤコブはなぜ「長子の権利などどうでもいい」と言ったのでしょうか？

ヤコブさんはお腹がすいていると言って、長子の権利をエサウさんに簡単に渡してしまいました。なぜでしょう？ ヤコブさんはこの時はまだ若いし、狩りもうまいので、「そんなものどうでもいい」と思ったのかもしれないですね。自分に自信がある時、本当はとても大事なものののにそれが分からないことがあります。神さまはその代表でしょう。

④この話、最後はヤコブとエサウは仲直りします

こんなヤコブさんとエサウさんですが、最後には仲直りします。ヤコブさんは「ごめんなさい」と謝り、エサウさんは「もういいよ、神様の恵みをたくさん受けているから」と答えます (33:9～10)。愚かなことをする二人の姿は私たち自身の姿と重なります。しかし、その彼らが変わえられたところに、私たちの救いも見ることができるのです！